

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑 Aフロア		
所在地	豊橋市前芝町字加藤381-2		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成27年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26		
訪問調査日	平成27年9月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設は純和風の外観であり、両フロアからは中庭で栽培している菜園や花を眺めることができます。近くには河川敷公園があり、景色も良く、散歩にとても最適となっています。地域の方々も散歩に訪れられており、触れ合いの場になっています。中庭での菜園にて花や野菜を育て、椅子やテーブルが設置してあり、休憩に使用したり、利用者様同士の交流する場となっております。利用者様が主体的に暮らし、一人ひとりの個性を引き出しながら、さり気ない介助、声かけを心掛けています。また地域との関わりにも力を入れており、施設へ入居されても地域社会との繋がりを続けていけるよう地域との関わりを重点に置き、「外へ出掛ける。」といった事を大切にしています。小学校、中学校、自治会との交流を中心に施設として様々な活動を地域に発信していけるよう努めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員が、利用者の担当者会議に出席することが増えたことで、職員間での情報の共有が密になり統一した支援が行われている。今年度は利用者の趣味や好きな物を写真に撮り、一人ひとりの居室の名札の所に飾っており、利用者とのコミュニケーションのツールにもなっている。家族アンケートからは、職員がいつも笑顔で話しやすくきめ細かい対応で安心して任せられると好評である。認知症カフェの開催、小学校・中学校との交流、民生委員の会議に出席して認知症との関わり方などの相談を受けて助言するなど、地域の人達との積極的な関わりが評価できる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護方針「全ては利用者様の為に」といった事を掲げながら、全職員が利用者様の生活を支えていけるよう取り組んでいる。また自施設の目標も掲げ、利用者様を主体とした考えで支援を行っていけるよう全職員の意思統一を図っている。	理念を基にして毎年4月に目標を掲げている。昨年の目標を評価して見直し、それを踏まえた今年度の目標は、利用者のペースに合わせた支援・職員の連携を図るなどである。職員は目標に向かって日々実践しており、それにより職員間での情報の共有が密になってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区自治会を主体とした「地域見守り隊」にも参加し、施設として地域支援活動に努めております。また小学校との交流も大切に考え、校内の草取り、雑巾提供なども行っております。H27年8月より自治会と協力し、校区にて認知症カフェを開催していきます。	お祭りなど地域の行事は利用者に参加して交流を図っている。また、地域の小学校、中学校の緊急時の協力名簿に事業所が入っており、避難所にもなっている。職員は民生委員の会議に出席し、その中で認知症について相談され助言をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に立ち寄れる環境を整えており、地域の方からの質問や相談を受入れる体制を整えている。職員も積極的に研修や勉強会に参加するようにし知識の向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告を行い、その中で参加者からの意見を伺い、施設サービスの向上に努めている。また今年度は認知症カフェの開催を地域と一緒に進めていけるよう意見の統一を行ってきた。	会議の中で、感染症についてなど介護の勉強会もおこなっている。他に参加者から介護教室、地域の運動会など様々な情報ももらい事業所は参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり、担当者の訪問時に事業者のサービス内容、取り組みを伝え、助言を頂いている。また介護相談員の訪問もあり、意見交換も行っている。	市役所担当職員とは、何度も出向き、地域との交流について話し合い、今年度認知症カフェを開催している。職員は市主催の実践者研修などいろいろな研修に参加して、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制止したり、職員の都合で抑制しないよう職員間で話し合い、支援を行っている。安全面の問題が発生してしまった際は、カンファレンスを開催し、支援方法を検討するよう心掛けている。	身体拘束制止について、法人内外の研修に参加するとともに衛生、感染症、褥瘡などの会議の中で身体拘束にあたる部分をピックアップして話し合っており、職員間情報の共有をして、統一した利用者の安全確保に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常に虐待行為の兆候を見逃さないよう意識し合い、職員同士で助け合いながらストレスを溜めないよう心掛けている。困った時は、お互いにアドバイスをしながら皆でレベルアップ出来るよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についての研修に参加し、施設内でも勉強会を開催し、職員全員で知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の方針、ケアに関する取り組みなどを説明した上で、ご家族様、ご利用者様の希望、要望を聞き入れ、納得を頂いている。また退居後の対応なども説明し、安心して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会を開催し、第三者委員からの意見なども伺いながら希望、要望に沿えるよう対応している。また面会時などに話をする機会を作り、意見を頂くようにし、職員間で話し合いながらサービス向上に努めている。	家族とは日頃から連絡を取り合っており、要望など直接聞いている。また、年2回家族にアンケートを出しており、その中でも要望や意見を貰い、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、責任者会議を開催し、職員からの意見や要望を聞き入れながらコミュニケーションを図るようにしている。管理者は、職員の様子を見ながら常に気に掛け、その都度面談などを行い、関係性を作っている。	毎月職員会議の中で、職員一人ひとりが議題を出して、それを話し合い解決している。その一例として利用者の担当者会議の在り方を話し合い、職員の参加を増やしたことで、情報の共有が密になりサービスの質の向上に反映している。解決できない事案は管理者から上司に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のメンタル面、体調面に気を配り、悩みや疑問の解決に取り組んでいる。年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には積極的に参加して頂き、知識の向上に努めている。研修後は、復命書を提出して頂き、全職員にも研修内容の報告、勉強会を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修に参加し、他事業所の方との交流、意見交換を行い、日頃のケアに活かしている。事業所内の勉強会の中でも他事業所からの意見について話し合いを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況、身体状況の把握をし、利用者様の求めている事やご家族様の要望なども理解するよう努めている。職員は常に利用者様本位の考え方を持って状況把握するよう徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めている事、負担を感じている事などを聞き入れ、理解した上で事業所としての支援方法を伝えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の困っている事、不安に感じている事を見極め、出来る事はすぐに実行するよう努めている。すぐに出来ない事に関しては、方策を考えながら今後の対応策として案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が辿ってきた生活リズムや環境を大切にしながら得意な事、やる気が持てる事を把握し、参加意欲を持って頂けるようにしている。また職員は「教えて頂く」という気持ちを頭に置き、接するようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中での出来事、体調面に関して面会時や毎月送っている手紙の中で報告したり、支援方法について相談するようになっている。ご家族様と常に連携が図れるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで築き上げてきた関係やつながりを続けてられるよう希望に応じてご家族様にも協力して頂き、買い物や外食など出掛ける機会を作っている。行事では、出来る限り外へ出掛け、人と触れ合う機会を考えている。	利用者の馴染みのスーパーマーケットや墓参りなどに出かけている。家族の協力が増えて、洋服の衣替えで自宅に帰り泊まったり、その他にも外食や買い物に出かける機会は増えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの相性を把握し、席を考えたり、なかなか輪に入れない方や障害によりコミュニケーションが上手に取れない方は職員が積極的に関わり、他の方とのコミュニケーションの仲介をするよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も気軽に相談などを受け入れる体制を整えている。相談を受けた際は、丁寧に話を聞き、ご家族様の不安や心配事の解消に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、その時々感じている希望や思いを掴み、定期的なモニタリングの際に職員間でケア内容を話し合うようにしている。また日頃からどのような暮らしを望まれているかをさり気なく伺うようにしている。	日頃の利用者との会話を大事にして、利用者の気持ちを察するように心がけている。カンファレンスにパート職員も出席して意見を取り入れ、情報交換の場を持ち利用者の思いなどの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前のアセスメントやフェイスシートの中からこれまでの経歴を知り、支援していく中でどのような事に興味があったり、過ごしやすいつ感じているかを少しずつ把握していくよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子、関わる中で知り得たその時々現状を記録に残したり、職員間で情報交換を行いながら把握に努めている。また必要に応じてケアの方向性を検討するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直しを行う際は、本人様を主体として物事を考え、生活に望んでいる事、抱えている悩みや思いを前面に打ち出しながら介護計画に繋げている。アセスメントを行う際、思いの実現に向けての方策を考えている。	ケアプランは半年ごとの見直しが行われており、ケース記録で毎日の生活のサービス記録よりアセスメントを行い、評価をしている。利用者や家族の要望を聞き取り、介護計画に反映できるように心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子の中から、これまでとは違う変化や取り組んで良かった事、失敗した事など細かく記録に残し、臨機応変にケアの方法を統一し、実践するよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の希望、その時々状況に応じて、ふさわしい支援となるよう広い視野で物事を考えるようにしている。施設で行うサービスに捉われず、一人ひとりの生活スタイルに目を向けるようにもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、地域の民生委員、自治会長、包括支援センターの職員と意見交換を行い、地域のイベントへ参加させていただく機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に応じて、かかりつけ医の受診を支援している。希望するかかりつけ医がない利用者様については、施設協力医の往診にて適切な医療を受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医を数名が利用しており、基本的に市内の病院へはホームで対応している。何かあれば、内科の協力医より紹介状を書いてもらい、他の病院へ職員が同行している。その場合には、家族にも来てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や介護職員と協力しながら状態の変化、健康管理に努め、必要に応じた支援を行うようにしている。月2回の主治医往診時にも状態報告を行い、助言を頂きながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医と情報交換を行いながら指示を仰いでいる。入院中については、頻繁に介護職員、看護職員が面会に伺い、回復状況の把握、担当医との話し合いを行い、早期退院に努めている。同時に環境の変化による気持ちのケアも行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始の際、終末期ケアについての意向確認を行い、利用者様、ご家族様の思いに沿った対応を行うようにしている。また終末期、重度化になった際は、再度主治医、ご家族様と相談しながら意向に沿った対応を行うよう努めている。	数少ないが看取りの経験はある。かかりつけ医より看取りの状態になった場合、家族が場面場面で意見が変わっているのが現状である。法人の研修には出席している。	その時のために、看取りの体制の確立を徹底しておくこと、職員の手順の確認を定期的に行う事を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員にて応急処置の勉強会を行ったり、消防職員による救命講習の研修を実施したり意識向上を図っている。緊急時マニュアルも作成し、職員が目に来る場所に沿った対応を行うよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員、防火管理者立会いの下、年2回避難訓練を実施し、その都度助言を頂いている。併設の特養とも合同で訓練を実施し、消防署の協力の下、行わなければならない事を明確にするようにしている。今年度より防災BCP計画の作成も取り組んでいる。	年2回、9月と3月に昼間と夜間の避難訓練を行っている。消防署立会いのときもあるが、防災設備会社から機器の説明を受ける事もある。各施設の防火管理者が集まり、災害にあつてからの事業復旧までの流れ(防災BCP計画)の作成中である。	年2回の訓練の他に自主訓練も定期的に行い、少しでも落ち着いた行動ができるよう取り組まれることを望む。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの個性や意思を尊重し、物事を行う際には、職員の都合で利用者様の生活を制限したりすることのないよう努めている。また自身で選択して頂けるような促しを行っている。	一人ひとりに合わせた対応を心がけており、職員は自分に置き換えて嫌なことはしないよう努めている。ホームの目標でもある利用者本位の個々に合ったペースでケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら希望を口にされる事を遠慮されてしまう利用者様もお見えになる為、職員側からの声かけを工夫し、本人様にとって伝えやすい環境を作り出すようにしている。また意思表示が困難な方でも出来るだけ気持ちを察していけるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを決めず、起床から就寝までの時間を一人ひとりのペースに沿って行って頂くようにしている。日頃の関わりの中でも本人様の希望、要望を聞き入れながら生活リズムの改善に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣を行って頂く際は、ご自身で衣類を選択して頂けるような声かけを行うようにしている。自身で選ぶ事が困難な方には、気温や機能性、色合い等を職員が考えながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳、汁物の調理など家事が得意な方や参加希望がある方など力量に合わせて利用者様同士で助け合う事でもやりがいや充実感、達成感に繋がられるよう支援している。	ご飯と味噌汁はホームで作っており、利用者も配膳やご飯をよそうことは手伝っている。おやつレクリエーションは、月に2回ほどあり季節のおやつを利用者も一緒に作っている。月1回の外出の際に外食をすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日記録に残し、職員間で情報共有を行っている。嚥下状態にも注意しながら観察を行い、状態に応じて管理栄養士と相談しながら食事形態の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの力量に合わせた支援を行っている。職員へも口腔ケアの重要性を理解して頂けるよう勉強会を開催したり、常日頃から伝えていくようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品に頼らず、出来る限りトイレでの排泄が行えるよう利用者様一人ひとりの排泄パターンを観察しながら声かけや案内のタイミングを図っている。さりげない仕草などからも排泄のサインを見逃さないよう努めている。	自立の人は数名おり、排泄後に状態を聞いている。他はチェック表で確認しながらトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを利用したり、巡回の時やそれ以外でも様子を見て、声をかけたり見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に記録し、便秘傾向が見られる方には、乳製品やセンナ茶などを提供し、自然排便に繋がれるように努めている。運動にも注意を払い、散歩や体操などを行い、活動量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて入浴して頂けるよう声かけを行っている。拒否が見られる方には、言葉やタイミングなどを考えながら対応している。清潔保持と同時に楽しい時間になるよう1対1での関わりを大切にしている。	入浴は10時から3時頃の間3日に1回程の割合で入っている。入浴を拒否する場合は、時間を変えたり、清拭にするなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの様子を見て、必要と思われる時や希望のある時は休息して頂くようにしている。安心して眠れるよう服装や室温調整など考えたり、温かい飲み物を提供、足浴などの対応を行い、安眠に繋げている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の説明書、注意事項をケースファイルに保管し、薬の重要性を全職員が認識出来るようにしている。服薬時は、飲み終えるまで必ず見守りを行い、誤薬の危険性に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品などを把握し、その時々々の希望によって個別支援を行っている。利用者様同士での共通の趣味にも目を向けるようにし、お互いに助け合い、相談しながら楽しんで頂くような場も作り上げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出レクを計画し、少人数で戸外へ出掛けている。また利用者様の希望に合わせて買い物や散歩を支援している。希望や要望が聞かれない方でも外の空気に触れて頂く事を大切にし、リフレッシュ出来るような環境を作っていくようにしている。	日常では隣の施設の池の鯉を見に行ったり、河川敷の公園へ出かけたりしている。月1回の外出レクリエーションでは、水族館や季節の花見などに出かけ、お弁当を食べたりしている。また、利用者の希望の場所へ出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、ご家族様の意向に合わせて施設管理の方も見える。本人様の意向も大切に、ご家族様と相談の下、自己管理されている方も見える。買い物の支払いについても一人ひとりの力量に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて親しい方と電話で会話をしたり、ご家族様へ手紙を書いて頂く機会を作ったりと誰かに自分の思いを伝えるといった喜びを感じて頂けるように環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自然光を室内に入れるようにし、開放感のある空間を作り出すようにしている。また換気もこまめに行うよう徹底し、空気の入れ替え、臭いへの配慮などにも努めている。また玄関を中心に写真の掲示を行っている。目で見えて楽しんで頂けるよう努めている。	玄関入口に今日の職員の出席者の写真があり、来訪者にわかりやすくしている。また、利用者の外出の時の楽しそうな写真が、目に付く場所に掲示されている。コーヒーが好きな利用者のために喫茶店の雰囲気が出るよう、おしゃれなテーブルとイスでコーヒーを飲めるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで独りで過ごされる事の多い利用者様には、職員が積極的にコミュニケーションを図っている。利用者様同士で関わりが持てるような会話の仲介や気兼ねなく過ごす事が出来る場所を見つけ出せるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用されていた思い出のある物品を居室に持ち込んで頂き、生活空間の環境を整えられるよう支援している。また身体状況、状態に応じて利用者様、ご家族様と相談しながら空間を改善している。	各居室の入口にその人の思い出の写真(水戸黄門が好きな人は黄門一行の写真、航空自衛官だった人は飛行機の写真)などを貼ることにより、居室をよりわかりやすくすることや、コミュニケーションの一環にもなっている。使い慣れたタンスやイスが持ち込まれ、整理整頓された居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者様の身体状況に合わせて安全に生活して頂ける環境を整えている。生活して頂く中で不具合が生じると感じた際は、職員間で話し合いながら環境改善に取り組んでいる。		